

2020年6月14日(日)メッセージアウトライン「喜びはどこからやって来るのか？」

聖書箇所：ローマ人への手紙5：1～11

タイトル：「喜びはどこからやって来るのか？」

テーマ：聖書を読んでいると、「喜ぶ」「喜びなさい」「喜ばれるように」... という具合に「喜び」に関する言葉が、たくさん登場します。私たちも日頃から、クリスチャンであってもそうでなくても喜んだり悲しんだりしています。今日の聖書箇所で、この手紙を書いているパウロは、神から与えられた素晴らしい恵みや、さらに将来に対する希望に心踊らせて、その喜びの根源が何であるかを語っています。パウロが語り、同時に経験している喜びと、私たちが考えている喜びは同じものなのか、どこか違っているのか、みことばに照らしつつ、心に問うてみましょう。

1. 信仰によって義と認められた喜び

パウロはこの5章までで、

①「義と認められる」とはどういうこと？

*すべての人は神の前には罪人である。「義人はいない。一人もいない。」ローマ3：10
(詩篇14：1～3の引用)

*律法を行うことによって誰も義と認められない(ローマ3：20)

*人が救われる(義と認められる)のは神からの恵みと神への信仰による。パウロはこの事実を4章で語り、パウロが書いたエペソ人への手紙2：8、9にははっきりと「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われた」と記されている。

*信仰の中身は——Iコリント15：3～4「キリストは聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと」

*「義と認められる」(救われる)とは、神との新しい関係、平和な関係が築かれたということ、新しいいのちに生まれ変わらせていただいたことを意味している。救われて、新しいいのちに生きる者として聖霊に導かれて生きるのだ。

2. 「義と認められた者(新生した者)は何を喜んでいるのか？」

①神との平和をいただいた喜び(1節)

②イエス・キリストに対する信仰によって、神の恵みに入れられた喜び(2節)

③神の栄光にあずかる望みを喜ぶ(2節)

④苦難さえも喜ぶ(3節)

*なぜ苦難を喜ぶことができるのか

⑤聖霊の内住によって神の愛が私たちの心に注がれている喜び(5節)

3. 神の愛を喜び誇る (6～11節)

- ① イエス・キリストによって示された神の愛
- ② 神がお定めになった時(6節)
- ③ キリストの十字架の死
- ④ 喜びは神から来る

4. 私たちの喜びは何か?

- ① 私の経験から (救われた時、何を喜んだか)
- ② クリスチャンの過去・現在・未来の喜びとは?
- ③ 私たちは実際に何を喜んで過ごしているか?

5. 結論

- ① 喜びの源なる神
- ② 本当の喜びを知った者として